



ジェニファー・ペイカート (CSR アジア プロジェクト・マネージャー)

監修：高橋 佳子 (CSR アジア シニア・プロジェクト・マネージャー)

## 香港のデモ「雨傘革命」について企業が知っておくべきこと

「セントラルを占拠せよ運動」を報じるニュースの中に、今回のデモは環境意識が高いことを指摘する小さな記事があった。座り込みしているエリアはゴミひとつなくきれいに保たれている。清掃係りがきれいにしているのではなく、座り込みしている人々がゴミ捨て場まできちんとゴミを持っていき、そこに捨てているからだという

このエピソードから香港市民の一面が見えてくる。デモに参加した人は礼儀正しく他人を傷つけたくないという意図をもち、また抗議行動を行うことで都市に問題を生じさせてはいけないという意識が高い。今回の抗議活動によって、若者は、香港がよりよい社会になるよう、人々の行動を変え、政治や環境問題について真剣に考えていることをアピールした。また、香港がどこに向かい、香港は人々、商業、社会のモビリティ、政治的平等、自由、環境の持続性について何を求めているか、という問題を提起し、新しい香港の姿が世界に示された。

香港の企業はこうした意識の変化を見逃してはならない。若者達は将来の消費者、労働力であるだけでなく、政治や社会をよりよくするために自ら立ち上がり、参加する人々だからだ。香港はすでに変化の時期を迎えており、この変化は企業の事業活動にも影響を与える。ハーバード・ビジネス・レビューに掲載されたワークライフ政策センターの最新の記事によれば、労働力の中心を占める Y 世代は、「労働を通して社会に貢献」することを望んでいることがわかる。若者が職場に求めることを、雇用者が把握することは、優秀な人材を獲得し確保するためにも重要だ。

### デロイト・ミレニアル調査が伝えること

2014 年の初めに、デロイトは「大きな要求と高い期待」と題したデロイト・ミレニアル調査を実施した。この調査では大卒以上でフルタイムの職をもつミレニアル世代 (1983 年以降に生まれた人) 7800 人以上を対象とし、北米、西欧、中南米、アジア太平洋地域の 26 개국それぞれ約 300 人から回答を得た。

この調査の結果では、ミレニアル世代は企業活動を肯定的に見ているが、企業はまだ可能性を十分に発揮していないと多くの人が感じており、世界が抱える課題に関しては、企業はプラスよりマイナスのインパクトを与えていると感じていることが分かった。収入と富の不平等、(-18% の実質マイナスのインパクト)、気候変動/環境保護 (-25%) と資源枯渇 (-28%) だ。

報告書からみえてくるのは、ミレニアル世代は先進的な考え方を尊重し、リーダーシップ・スキルを開発してくれる組織で働き、社会に役立つ貢献をしたいと考えていること、また責任あるビジネスとは会計収支上の利益よりも社会にとって正しいことをすることだと見ていることである。ミレニアル世代は環境問題と企業の社会責任を最重要視し、彼らにとって、環境への取組みと企業市民活動は「あれば良い」ではなく「なければならない」ことなのだ。彼らは自分が働く雇用主や会社に倫理的に正しい企業市民であり、環境に配慮することを期待している。

調査対象となったミレニアル世代の 4 分の 3 以上が、就職先を決めるにあたって、その企業がいかに先進的であるかを重視すると回答した。特に中国とインドの回答者の約 90% が、就職先選定には企業の先進性がとても重要だ、と答えている。では、企業は優秀な人材を獲得するために、こうしたミレニアル世代の期待にどう応えていくべきか。企業は先進的な製品やサービスの開発に向けて、組織内で新しい考えが出てくるような環境をつくる一方で、政府や NGO や他の企業と協力して、創造的な解決策を生み出せるように努力しなければならない。

多くのミレニアル世代が、社会の役に立ち、先進性を奨励し、彼らのスキル向上のチャンスを与える企業で働くことで世界に自分の足跡を残したいと考えている。また、これまでの世代以上に彼らは従来型の組織で働くことに固執しておらず、自分のニーズが満たされないなら、独立して働きたいと考えている。この新しい世代の最も優れた人材を確保したいのであれば、企業は香港の雨傘革命の精神を考慮し、変化する新しい香港に対応していかなければならない。